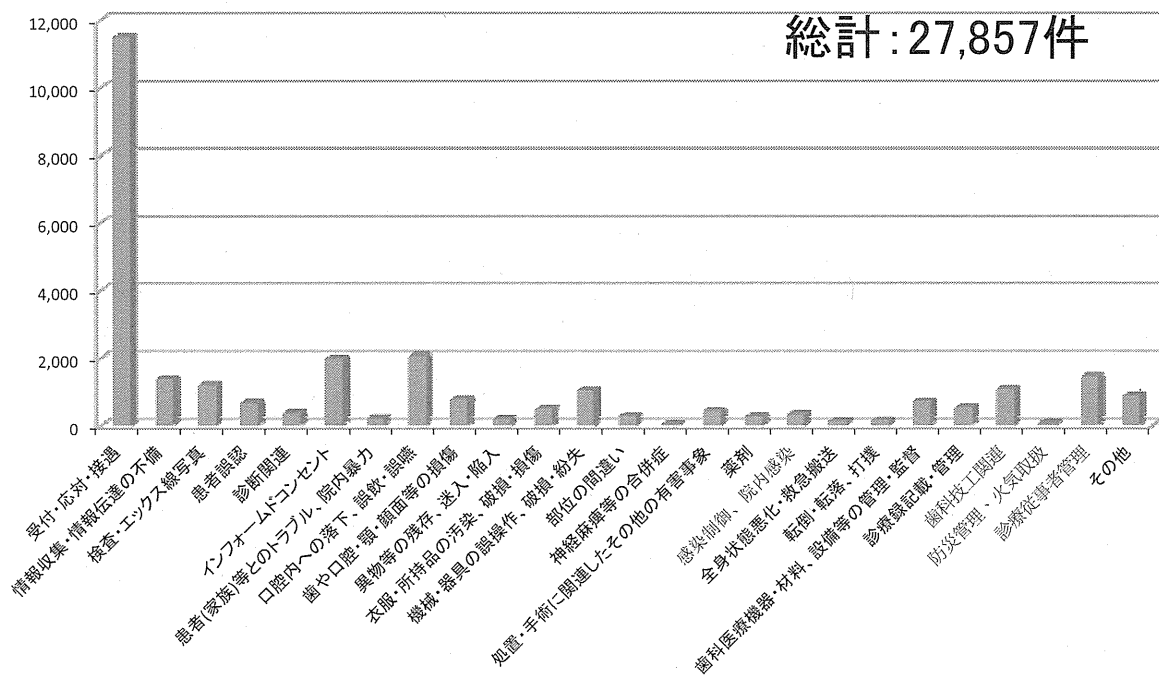


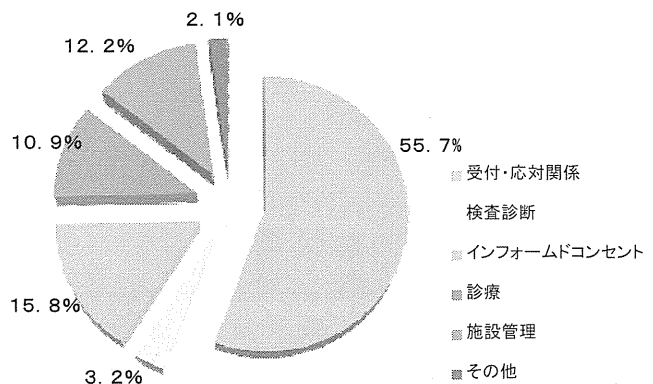
インシデント事例集計 (2009.7～2010.3)



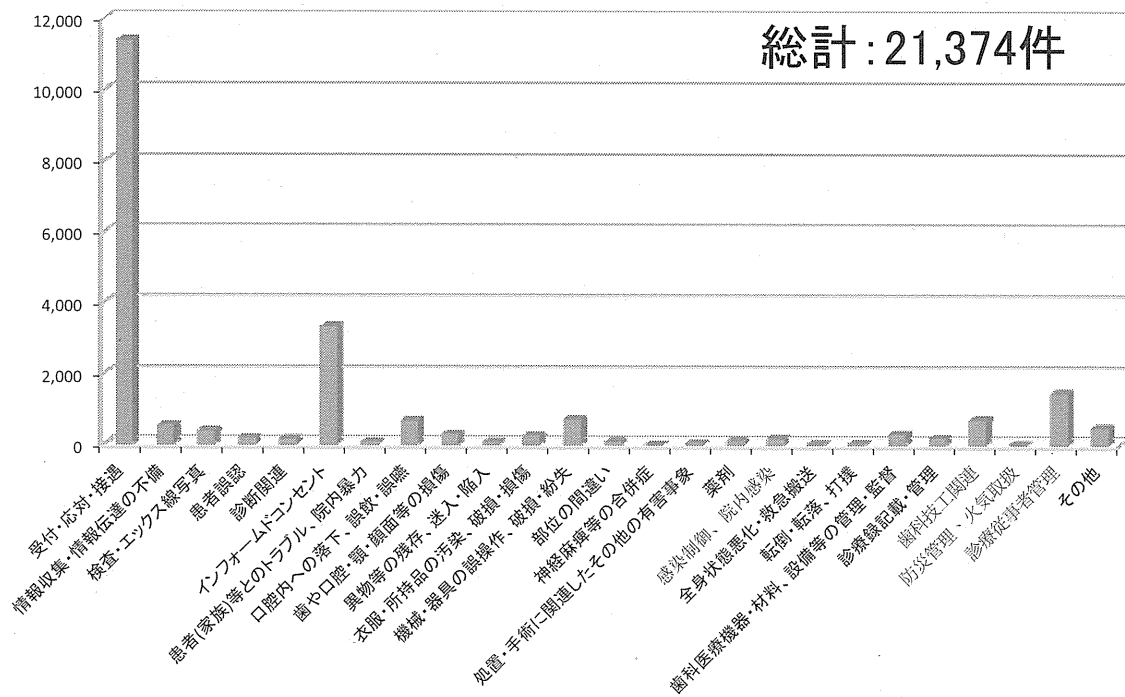
インシデント事例集計(2010.4~2011.3)

受付・応対・接遇	11,397
情報収集・情報伝達の不備	512
検査・エックス線写真	372
患者誤認	174
診断関連	144
インフォームドコンセント	3,324
患者(家族)等とのトラブル、院内暴力	51
口腔内への落下、誤飲・誤嚥	670
歯や口腔・顎・顔面等の損傷	277
異物等の残存、迷入・随入	56
衣服・所持品の汚染、破損・損傷	245
機械・器具の誤操作、破損・紛失	698
部位の間違い	66
神経麻痺等の合併症	4
処置・手術に関連したその他の有害事象	35
薬剤	82
感染制御、院内感染	165
全身状態悪化・救急搬送	17
転倒・転落、打撲	22
歯科医療機器・材料、設備等の管理・監督	286
診療録記載・管理	173
歯科技工関連	692
防災管理・火気取扱	11
診療従事者管理	1,444
その他	457
	21374

総計: 21,374件



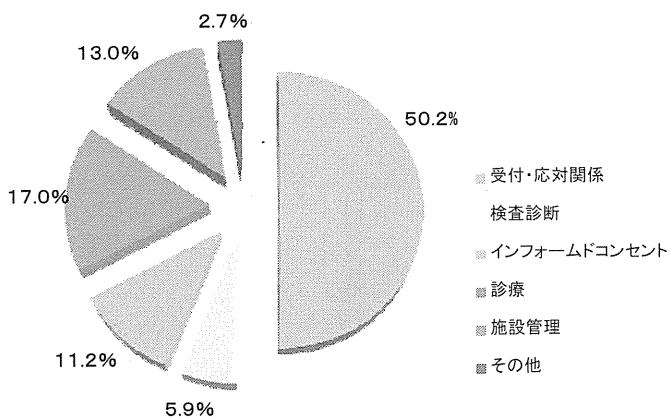
インシデント事例集計(2010.4~2011.3)



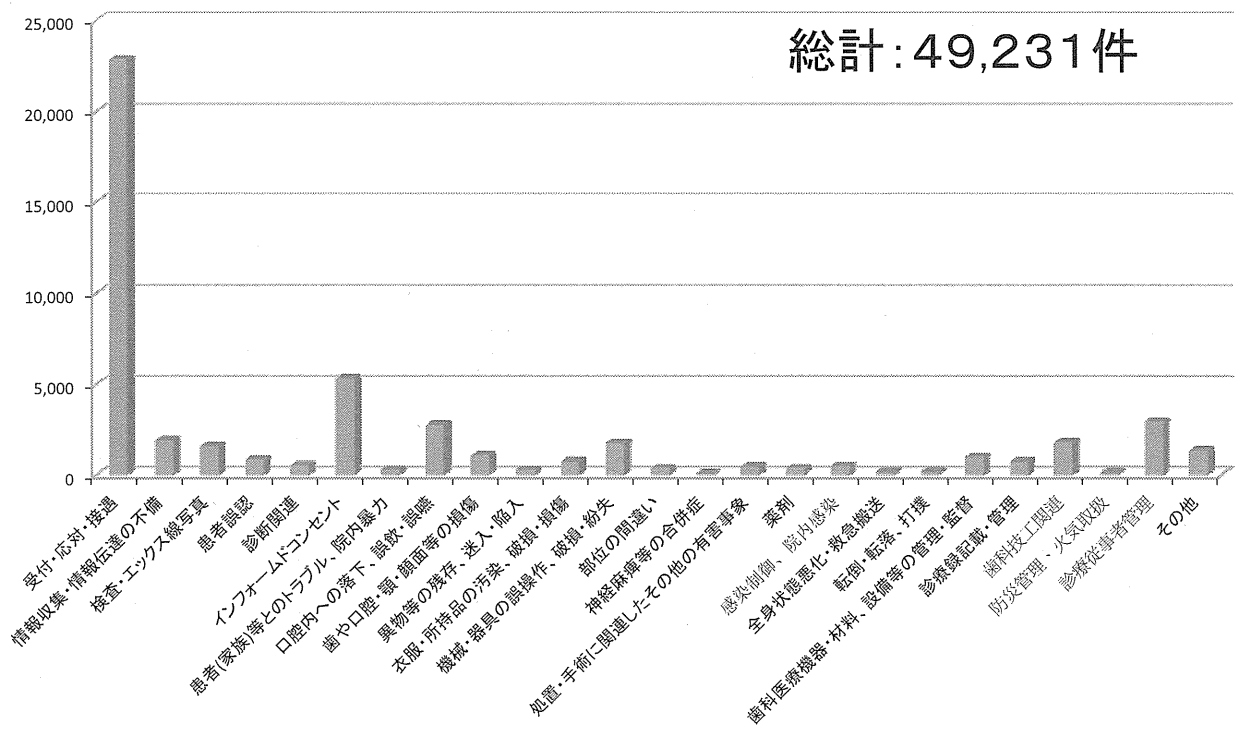
インシデント事例集計(総合) (2009.7~2011.3)

総計: 49, 231件

受付・応対・接遇	22,856
情報収集・情報伝達の不備	1878
検査・エックス線写真	1553
患者誤認	830
診断関連	503
インフォームドコンセント	5,291
患者(家族)等とのトラブル、院内暴力	246
口腔内への落下、誤飲・誤嚥	2719
歯や口腔・顎・顔面等の損傷	1043
異物等の残存、迷入・陥入	228
衣服・所持品の汚染、破損・損傷	716
機械・器具の誤操作、破損・紛失	1722
部位の間違い	336
神経麻痺等の合併症	26
処置・手術に関連したその他の有害事象	462
薬剤	336
感染制御、院内感染	479
全身状態悪化・救急搬送	134
転倒・転落、打撲	149
歯科医療機器・材料、設備等の管理・監督	980
診療録記載・管理	702
歯科技工関連	1769
防災管理・火気取扱	70
診療従事者管理	2,884
その他	1319
	49,231



インシデント事例集計(総合) (2009.7~2011.3)



平成21-22 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

「歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究」

歯科医療における安全管理評価法（仮版）Ver. 0.9 より抜粋

歯科診療所 医療安全セルフチェック（案）

平成23年5月

「歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究」 研究班

1.医療安全管理に関する総合的な体制整備について

1-1) 医療安全管理のための指針(マニュアル等)

- 1-1-1) 医療安全管理の指針を定めている。
- 1-1-2) 医療事故防止のマニュアルがあり、定期的に見直している。
- 1-1-3) 全ての職員が、医療安全のマニュアルを見ることができるようにしている。

1-2) 有害事象(医療事故)等の院内報告制度

- 1-2-1) ヒヤリ・ハットや有害事象(医療事故)等、インシデント報告の体制がある。
- 1-2-2) 報告書等の分析・検討を行い、再発防止に役立てている。

1-3) 医療安全管理の体制確保のための委員会(打ち合わせ)

- 1-3-1) 安全管理のための委員会(打ち合わせ)を、ほぼ毎月開催している。

1-4) 医療安全管理のための教育・研修の実施または受講

- 1-4-1) 定期的に、医療安全管理のための教育・研修を開催、または受講している。

1-5) 医療事故防止担当職員

- 1-5-1) 医療安全管理責任者を配置している。 (職種:)
- 1-5-2) 医薬品安全管理責任者を配置している。 (職種:)
- 1-5-3) 医療機器安全管理責任者を配置している。 (職種:)

1-6) 有害事象(医療事故)等が発生した場合の対応

- 1-6-1) 有害事象(医療事故)が発生した場合の対応を定めており、緊急又は重大事態が発生した場合の対応(緊急連絡等を含む)等について診療所内のスタッフ全員が周知している。
- 1-6-2) 救急処置(一次救命処置等)の対応が周知され、研修を定期的に受けている。
- 1-6-3) 緊急時における患者搬送等、連携保険医療機関との協力体制を確保している。

2.診療録等の管理体制について

2-1) 診療録の記載

- 2-1-1) 診療録への診療情報の記載を、迅速かつ適切に行っている。

【診療情報】

A)患者の主訴. B)理学所見や検査所見などの客観的情報. C)検査や治療の目的. D)検査や治療の内容. E)検査結果の所見, 評価と診断. F)治療方針. G)インフォームド・コンセントに関する内容. H)有害事象(医療事故)等の内容・状況 等

- 2-1-2) 患者の禁忌情報を共有している。

2-2) 診療録の管理・運用(電子媒体または紙媒体、あるいはその双方)

- 2-2-1) 診療録は適切に管理・運用しており、診療時に必要な内容を確認している。
- 2-2-2) 記載者が署名、又は押印を必ず行っている。

3.院内感染予防対策について

3-1) 院内感染対策の指針

- 3-1-1) 院内感染対策マニュアル類(針刺し事故等を含む)を作成し、運用している。

3-2) 外来診療

- 3-2-1) 標準予防策の概念に基づいた歯科医療機器の消毒、手指の消毒、手袋の使用、個人防護用具、歯科用材料・技工物などの適切な使用・管理を遵守している。
- 3-2-2) 歯科用局所麻酔針等の鋭利器具を、取り扱いから廃棄まで、適切かつ安全に管理している。

4. 歯科治療前について

4-1) 受付対応・接遇

- 4-1-1) 受付対応(電話対応等も含む)で患者(姓名、性別、生年月日、住所、ID 番号等)、担当医、診療内容等の確認を行っている。
- 4-1-2) 患者への説明の際、内容を患者が理解できるような言葉遣いで説明し、納得が得られるように配慮している。
- 4-1-3) 守秘義務を徹底し、その他の個人情報の保護にも配慮している。

4-2) インフォームド・コンセント

- 4-2-1) 患者の意思決定に必要な情報を提供し、インフォームド・コンセントを十分に行っている。
- 【患者の意思決定に必要な情報】
A)現在の症状. B)その治療行為を採用する理由. C)治療行為の具体的内容および利点と欠点. D)治療行為に伴う危険性の程度. E)治療を行った場合の予後や改善の見込みや程度. F)その治療を受けなかった場合の予後. G)代替的治療法がある場合には、その内容および利害得失.
- 4-2-2) 説明文書、同意書の書式を定めている。
- 4-2-3) 患者からの診療内容の相談、苦情処理等に対応ができるようにしている。

4-3) 状態の把握と説明

- 4-3-1) 病歴聴取で既往歴、特異体質の有無、薬剤(金属、食物等)アレルギーの有無、家族歴等について確認・把握し、記録をしている。
- 4-3-2) 歯科治療の際、患者背景(年齢・既往歴・服薬状況・全身および口腔疾患の程度などを総合的に判断)に応じ、職員間で治療計画や指示内容などを確認している。

5. 歯科治療中について

5-1) 治療室

- 5-1-1) 治療する部位とその内容を事前に説明し、確認している。
- 5-1-2) 患者の状態観察を怠らず、処置の際には常に慎重な配慮がなされている。
- 5-1-3) インレー、クラウン、抜去歯、バー、リーマー、ロールワッテなどの口腔内への落下、誤飲・誤嚥防止対策等を励行している。
- 5-1-4) 性状や名称・外観が似ている薬品、歯科用材料等を確実に見分けられるような工夫をしている。
- 5-1-5) 歯科診療中の安全確保に対する配慮をおこなっており、必要に応じてモニタ用機器(血圧計等)を装着し、気分不快や全身状態の急変に対応できる。
- 5-1-6) 口腔外バキュームなどや診察室や技工室の空調等、環境感染防止に対して配慮し、定期的に点検をしている。

6. 歯科治療後について

6-1) 治療後の処理

- 6-1-1) 歯科診療後、血液などの処理について適切に行なっている。
- 6-1-2) 印象、技工物について適切に洗浄・消毒している。

7.薬剤・歯科材料について

7-1)医薬品・歯科材料等の管理

7-1-1) 歯科材料、消毒剤、注射薬剤などの薬剤が用途別に適切に保管し、使用期限を把握している。

7-1-2) 医薬品・歯科材料等の添付文書を保管してあり、適応、用法用量、使用上の注意などを把握している。

7-1-3) 劇薬等の処方・管理を適切におこなっている。

7-2) 医薬品・歯科材料の使用について

7-2-1) 処方せんの氏名、日付、医薬名、用法・容量などの内容の確認を励行している。

8.歯科医療機器について

8-1)歯科医療機器の管理

8-1-1) デンタルユニット(チェアーの作動、コンプレッサーの圧、タービンの回転等)・エックス線装置・電気メス・レーザー装置・光照射機などを適切に管理・整備している。

8-1-2) 歯科医療機器の点検・整備を定期的に行い、保守点検や安全管理記録を保管している。

8-2)歯科医療機器の取り扱い

8-2-1) 歯科医療機器の使用に習熟し、取扱説明書等の内容や注意事項等を把握している。

8-2-2) 歯科医療機器を新規導入した際等に必要に応じて研修等を受けている。

8-3) 緊急時対応に必要な医療機器の設備と管理

8-3-1) 緊急時対応備品(酸素吸入装置・AED等)を設置し、常に使用できる状態にしている。

9.歯科技工物について

9-1)歯科技工物、技工伝票などの管理

9-1-1) 歯科技工物、技工伝票などについて、適切に保管している。

9-1-2) 歯科技工物に不具合があった場合など、追跡調査が可能である。

10. 様々な歯科診療体制における安全管理体制整備について

10-1)様々な歯科診療体制における安全管理指針等の整備

10-1-1) さまざまな歯科診療体制や状況下(休日急患診療、訪問歯科診療、在宅介護、車椅子上での診療等)における安全管理指針等を整備し、実践している。

10-1-2) さまざまな患者管理法(局所麻酔下、精神鎮静法下、全身麻酔下、抑制下など)における安全対策の基本方針(指針等)を定め、実践している。

11. その他

地域性や診療の規模・内容等に応じた、個々の歯科診療所における医療安全対策の工夫など。

我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

■ 平成21年11月8日(日) 10:00~16:00

鶴見大学会館 メインホール 他 >>> JR鶴見駅より徒歩約1分

■ 『歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究』 研究班

【主任研究者】

嶋田 昌彦 東京医科歯科大学大学院医学総合研究科疼痛制御学分野 教授
 (歯学部附属病院 病院長)

【分担研究者】

助村 大作 日本歯科医師会歯科医療安全管理委員会 副委員長
 森崎 市治郎 大阪大学歯学部附属病院歯学部口腔外科 教授
 (同病院 副病院長)

端山 智弘 日本歯科医師会歯科医療安全管理委員会 委員長

高橋 民男 横浜市歯科医師会 顧問

北村 隆行 釧路市歯科医師会 副会長

相川 敏子 日本歯科衛生士会 副会長

土屋 文人 東京医科歯科大学歯学部附属病院 副病院長

馬場 一美 昭和大学歯学部口腔補綴学教室 教授

小台 順一郎 大阪医科大学歯科麻酔学講座 教授
 (附属病院 副病院長)

坂井 尚吾 日本歯科大学附属病院小児歯科 教授
 (同病院 前副病院長)

栄山 治久 鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座 教授

嶋 宏太郎 昭和大歯学部歯科矯正学教室 教授
 (歯科病院 副病院長)

式守 道夫 朝日大学歯学部顎顔面外科学 教授
 (附属病院 副病院長)

俣木 志明 東京医科歯科大学大学院医学総合研究科歯科医療行動科学分野 教授
 (歯学部附属病院 副病院長)

倉林 亨 東京医科歯科大学大学院医学総合研究科口腔放射線医学分野 教授
 (歯学部附属病院 副病院長)

三輪 全三 東京医科歯科大学歯学部附属病院形成系診療科 講師

安藤 文人 日本歯科大学附属病院矯正歯科 講師
 (同病院 医療安全管理委員会副委員長 安全管理部門長)

宮本 知行 東京医科歯科大学大学院医学総合研究科口腔・生体管理学分野 助教
 (歯学部附属病院 リスクマネージャー会議ワーキンググループ 座長)

【研究協力者】

丹羽 均 大阪大学大学院歯学研究科歯科麻酔学教室 教授
 (歯学部附属病院 副病院長)

砂川 光宏 東京医科歯科大学歯学部附属病院 准教授 総合診療科クリーンルーム歯科外来科長

鈴木 あつ子 東京都立北療育医療センター 歯科 歯科医長 他

入場
無料

挨拶・基調講演 10:00~10:10

我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

嶋田 昌彦

パネルディスカッション1 10:10~12:00

歯科医療安全管理の現状・問題点

(座長) 嶋田 昌彦・宮本 知行

歯科医療における医薬品・医療機器の安全管理

歯科における院内感染予防対策の実際とその問題点

日本歯科衛生士会における歯科医療安全管理の取り組み

日本障害者歯科学会における医療安全委員会の取り組み

歯科医療安全管理の海外の動向

土屋 文人

砂川 光宏

相川 敏子

鈴木 あつ子

深山 治久

パネルディスカッション2 13:40~15:20

歯科医療におけるインシデント収集と安全管理

(座長) 倉林 亨・俣木 志明

大学病院におけるインシデント

歯科口腔外科等診療施設におけるインシデント

障害者等専門歯科診療所でのインシデント

歯科医療におけるインシデントのデータベース化

歯科医療の質・安全向上に向けて

丹羽 均

式守 道夫

高橋 民男

安藤 文人

森崎 市治郎

全体討議 15:30~16:00

我が国における歯科医療の安全管理評価法の確立を目指して

(座長) 三輪 全三・土屋 文人

特別講演 13:00~13:40

(座長) 森崎 市治郎

日本歯科医師会・東京都歯科医師会における歯科医療安全管理の取り組み 端山 智弘・助村 大作

財団法人 日本救急医療財団

平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

研究成果等普及啓発事業

我が国における 歯科医療安全管理の現状と課題

平成 21 年 11 月 8 日 日曜日 10:00~16:00

鶴見大学会館 メインホール 他

歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究

主任研究者 嶋田 昌彦

【ごあいさつ】

我が国の医療を取り巻く環境が、大きな変革の時を迎えております。医療における安心・安全はその根底を成し、歯科医療においても例外ではありません。国民ひとりひとりに安心かつ安全な歯科医療を提供するには、個々の患者さんの状態や病状などを適切に判断し、十分に説明を行い、患者さんから納得を得ることが大変重要となります。しかしながら、実際の歯科診療におきましては、患者さんに対してなんらかの危険性や合併症など潜在的な危険性が常に存在します。

本研究班におきましては国民に良質かつ安全な医療を提供するために、「歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究」を、平成21年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 (H21-医療-一般-005)の助成を得まして、現在、研究を進めているところでございます。多方面から我が国における歯科医療の安全管理に関する第一人者の方々をお招きし、本研究班を構成いたしました。本発表会におきましては「我が国における歯科医療安全管理の現状および今後の課題」につきまして、本研究班からパネルディスカッションを中心に報告し、ご参加の皆様方を交え、歯科医療の安全に関する活発な議論を展開していただきたいと思っております。

なお、本発表会開催には財団法人日本救急医療財団から助成を賜りました。本研究班を代表し、御礼を申し上げます。

主任研究者 嶋田 昌彦

【本発表会開催の意義】

我が国における歯科医療形態は6万8千を超える無床歯科診療所が主体を成し、その全てに医療安全管理体制の充実が必要であるが、口腔内出血や落下物による気道閉塞など致命的な重大事故に繋がる事例も少なくない。安心、安全な歯科診療を目指し、さまざまな歯科診療形態の実態に即した医療安全管理体制構築のため、本研究班において歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究を進めている。本発表会では我が国における歯科医療安全管理の現状および今後の課題について、本研究班員による先進的な取り組みを含めて報告、検討する。得られた成果の公表により、歯科医療の安全に寄与し、国民に広く還元することが期待できる。

(本発表会申請用紙より抜粋)

財団法人 日本救急医療財団
平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
研究成果等普及啓発事業

発表会テーマ： 我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

日程： 平成 21 年 11 月 8 日 日曜日

場所： 鶴見大学会館 メインホール他

タイムテーブル

- 挨拶、基調講演 10:00～10:10 メインホール
『我が国における歯科医療安全管理の現状と課題』
東京医科歯科大学歯学部附属病院 病院長 嶋田 昌彦
- パネルディスカッション1 10:10～12:00 メインホール
『歯科医療安全管理の現状・問題点』
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 病院長 嶋田 昌彦
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院リスクマネージャー会議ワーキンググループ 座長 宮本 智行
- 『歯科医療における医薬品・医療機器の安全管理』
東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部長 土屋 文人
- 『歯科における院内感染予防対策の実際とその問題点』
東京医科歯科大学歯学部附属病院 准教授 総合診療科クリーンルーム歯科外来科長 砂川 光宏
- 『日本歯科衛生士会における歯科医療安全管理の取り組み』
日本歯科衛生士会 副会長 相川 敬子
- 『日本障害者歯科学会における医療安全委員会の取り組み』
東京都立北療育医療センター歯科 歯科医長 鈴木あつ子
- 『歯科医療安全管理の海外の動向』
鶴見大学歯科麻酔学講座 教授 深山 治久
- 昼休憩 12:00～13:00

- 特別講演 13:00～13:40 メインホール
『日本歯科医師会・東京都歯科医師会における歯科医療安全管理の取り組み』
日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 委員長 端山 智弘
日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 前委員長 助村 大作
(座長) 大阪大学歯学部附属病院 副病院長 森崎市治郎
- パネルディスカッション2 13:40～15:20 メインホール
『歯科医療におけるインシデント収集と安全管理』
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 副病院長 倉林 亨
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 副病院長 俣木 志朗
- 『大学病院におけるインシデント』
大阪大学歯学部附属病院 副病院長 丹羽 均
- 『歯科口腔外科等診療施設におけるインシデント』
朝日大学歯学部附属病院 副病院長 式守 道夫
- 『障害者等専門歯科診療所でのインシデント』
藤沢市歯科医師会 顧問 高橋 民男
- 『歯科医療におけるインシデントのデータベース化』
日本歯科大学附属病院矯正歯科 講師 安藤 文人
- 『歯科医療の質・安全向上に向けて』
大阪大学歯学部附属病院 副病院長 森崎市治郎
- 全体討議 15:30～16:00 メインホール
『我が国における歯科医療の安全管理評価法の確立を目指して』
『歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究』 研究班一同
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院育成系診療科 講師 三輪 全三
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部長 土屋 文人
- 閉会挨拶 16:00 メインホール
東京医科歯科大学歯学部附属病院 病院長 嶋田 昌彦
- *ポスター・資料展示 10:00～16:00 センタープラザ

『歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究』研究班

【主任研究者】

嶋田 昌彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科疼痛制御学分野 教授
(歯学部附属病院 病院長)

【分担研究者】

助村 大作 日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 前委員長
森崎 市治郎 大阪大学歯学部附属病院障害者歯科治療部 教授
(同病院 副病院長)

端山 智弘 日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 委員長

高橋 民男 藤沢市歯科医師会 顧問

北村 隆行 藤沢市歯科医師会 副会長

相川 敬子 日本歯科衛生士会 副会長

土屋 文人 東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部長

馬場 一美 昭和大学歯学部歯科補綴学教室 教授

小谷 順一郎 大阪歯科大学歯科麻酔学講座 教授
(附属病院 副病院長)

渋井 尚武 日本歯科大学附属病院小児歯科 教授
(同病院 前副病院長)

深山 治久 鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座 教授

榎 宏太郎 昭和大学歯学部歯科矯正学教室 教授
(歯科病院 副病院長)

式守 道夫 朝日大学歯学部顎顔面外科学 教授
(附属病院 副病院長)

俣木 志朗 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科医療行動科学分野 教授
(歯学部附属病院 副病院長)

倉林 亨 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線医学分野 教授
(歯学部附属病院 副病院長)

三輪 全三 東京医科歯科大学歯学部附属病院育成系診療科 講師

安藤 文人 日本歯科大学附属病院矯正歯科 講師
(同病院 医療安全管理委員会副委員長 安全管理部門長)

宮本 智行 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科麻酔・生体管理学分野 助教
(歯学部附属病院 リスクマネージャー会議ワーキンググループ 座長)

【研究協力者】

丹羽 均 大阪大学大学院歯学研究科歯科麻酔学教室 教授
(歯学部附属病院 副病院長)

砂川 光宏 東京医科歯科大学歯学部附属病院 准教授 総合診療科クリーンルーム歯科外来科長

鈴木 あつ子 東京都立北療育医療センター 歯科 歯科医長

他

平成21年度
厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業
[歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究]
(H21-医療-一般-005)

我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

平成21年11月8日

鶴見大学会館

主任研究者 嶋田昌彦

研究の背景

- 我が国の歯科医療形態は6万8千を超える個人開業形態の無床歯科診療所が主体を成している。
- 歯科医療における有害事象やヒヤリ・ハット等のインシデント事例や安全管理の実態は全国規模で明らかではない。評価方法も確立していない。
- 平成19年4月1日医療法改正
無床歯科診療所でも、具体的な安全管理体制の確保が義務付けられた。

医療安全管理の義務化

1. 安全のための指針の作成

(日本歯科医師会、日本歯科衛生士会)

各歯科診療所：医療安全管理指針，院内感染対策指針，
医薬品業務手順書，医療機器保守点検計画 等の整備

2. 確保すべき体制

医療安全管理委員会，院内感染対策委員会の設置，
医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者の配置（常勤）

3. 安全管理研修の実施（年2回程度）

医療安全管理研修，院内感染対策研修，医薬品安全使用のための研修，
医療機器安全使用のための研修

4. 必要な記録

職員研修の記録，事故報告書，
医薬品業務手順書の記録，医療機器の保守点検計画の記録

- 平成20年度～歯科外来診療環境体制加算の導入、財団法人日本医療機能評価機構薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業等が開始された。
- 未だ、歯科医療における有害事象やヒヤリ・ハット等のインシデント事例や安全管理の実態は全国的規模で明らかでなく、その評価方法も確立していない。
- 急速に高齢化社会となる我が国において、全身的基礎疾患や摂食嚥下機能低下を有する後期高齢者等に対する歯科診療時の安全管理体制の強化は必須と思われるが、全ての歯科医療機関で十分に対策がなされているとは言い難い。

平成18年度厚生労働科学研究費補助金(医療安全・医療技術評価総合研究事業)
 歯科における医療安全対策(管理)ガイドライン作成に関する研究
 歯科における医療安全対策(管理)ガイドライン(平成20年3月)
 主任研究者 海野雅浩

先行研究(H18年～)での研究協力機関

長崎県歯科医師会

東京都歯科医師会
(世田谷・練馬・杉並・江戸川)

藤沢市歯科医師会

東京医科歯科大学
 日本歯科大学
 鶴見大学 他

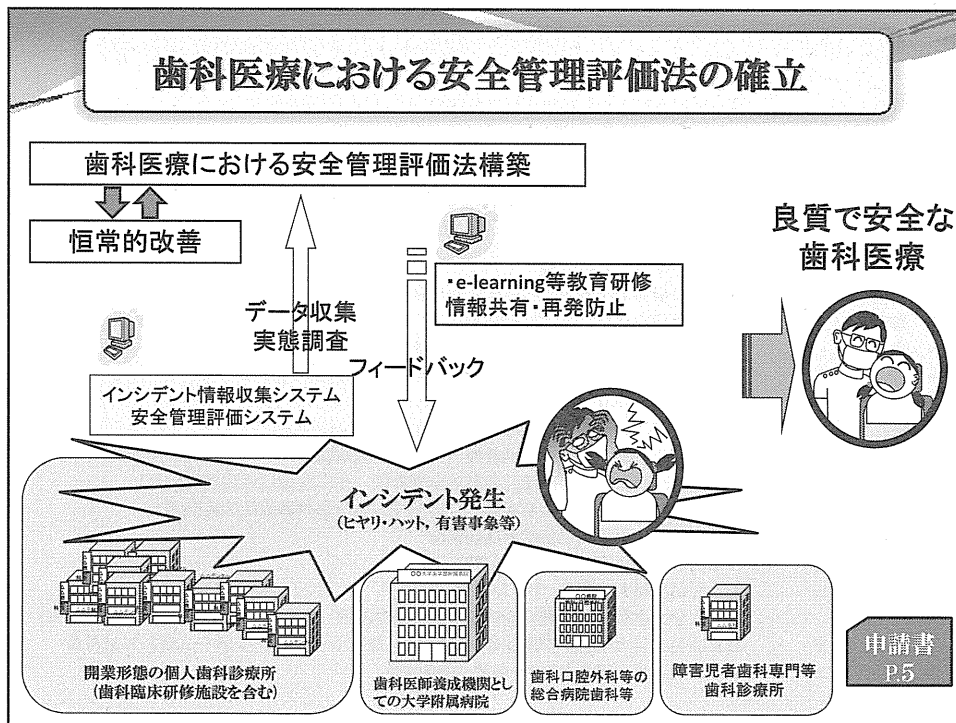
大阪大学
 大阪歯科大学

歯科医療におけるインシデントの特徴

- 外来での歯科診療に直接関係することが多い。
- 歯・口腔・顎・顔面領域など、局所にのみ影響が留まるインシデント事例が多いが、潜在的な危険性は高い。
- 歯科医療器具・材料・薬剤などは、歯科固有のものが多種多様にある。適切に管理し、細心の注意を払う必要がある。
- 歯は種類・本数が多く、形態が類似している部位もある。治療部位の確認は慎重に行う必要がある。
- 印象材、火炎、水、湯などの使用で患者さんの皮膚や衣服・所持品に損傷をおこすこともある。
- 不十分な説明、歯科治療時の不安や不快感、処置後に患者さんが期待した結果が得られないことなど、インフォームドコンセントや接遇に係るトラブルも少なくない。

研究の目的

- 本研究の目的は歯科医療の質・安全向上のために、歯科医療に特化した医療安全の適切な評価方法のあり方を検討し、我が国の実態に即した安全管理評価法の確立を目指すものである。



本発表会開催の意義

- 安全・安心な歯科診療を目指し、さまざまな診療形態の実態に即した医療安全体制の構築が必要である。
- 本研究班で進めている歯科医療安全管理の現状および今後の課題について報告、検討し、得られた成果を公表することにより、歯科医療の安全に寄与し、国民に広く還元することができる。

研究組織（主任、分担研究者および研究協力者）

- | | |
|----------|---|
| ● 嶋田 昌彦 | 東京医科歯科大学疼痛制御学分野教授（歯学部附属病院病院長） |
| ● 助村 大作 | 日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会前委員長 |
| ● 森崎 市治郎 | 大阪大学歯学部附属病院障害者歯科治療部教授（同病院副病院長） |
| ● 端山 智弘 | 日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会委員長 |
| ● 高橋 民男 | 藤沢市歯科医師会顧問 |
| ● 北村 隆行 | 藤沢市歯科医師会副会長 |
| ● 相川 敬子 | 日本歯科衛生士会副会長 |
| ● 土屋 文人 | 東京医科歯科大学歯学部附属病院薬剤部長 |
| ● 馬場 一美 | 昭和大学歯学部歯科補綴学教室教授 |
| ● 小谷 順一郎 | 大阪歯科大学歯科麻酔学講座教授（附属病院副病院長） |
| ● 渋井 尚武 | 日本歯科大学小児・矯正歯科学教授（附属病院副病院長） |
| ● 深山 治久 | 鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座教授 |
| ● 横 宏太郎 | 昭和大学歯学部歯科矯正学教室教授（歯科病院副病院長） |
| ● 式守 道夫 | 朝日大学歯学部顎顔面外科学教授（附属病院副病院長） |
| ● 俣木 志朗 | 東京医科歯科大学歯科医療行動科学分野教授（歯学部附属病院副病院長） |
| ● 倉林 亨 | 東京医科歯科大学口腔放射線医学分野教授（歯学部附属病院副病院長） |
| ● 三輪 全三 | 東京医科歯科大学歯学部附属病院講師 |
| ● 安藤 文人 | 日本歯科大学小児・矯正歯科学講師 |
| ● 宮本 智行 | 東京医科歯科大学麻酔・生体管理学分野助教 |
| ● 丹羽 均 | 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座 教授（歯学部附属病院 副病院長） |
| ● 砂川 光宏 | 東京医科歯科大学歯学部附属病院 准教授 総合診療科クリーンルーム歯科外来科長 |
| ● 鈴木 あつ子 | 東京都立北療育医療センター 歯科 歯科医長 |